

日本文化研究班

研究プロジェクト代表

John Carpenter

(ロンドン大学SOAS・准教授、立命館大学衣笠総合研究機構・教授)

「日本文芸と美術」プロジェクト

テキストと絵画が混在して作品化される日本美術は、美術・文学両面からのアプローチが必要である。それぞれが表象するもののコラボレーションを読み取り、日本文芸と美術の関連について追究する。

本プロジェクトの特色は、海外諸機関とのネットワークを土台とし、多国籍の研究者の視点から日本美術の特色を考えていくことにある。さらに、国際的資料アーカイブの蓄積を目指し、調査をすすめていく。

1, スイス・チューリヒリートベルグ博物館摺物研究

スイス・チューリヒにあるリートベルグ博物館 (Museum Rietberg Zürich) には約 300 点の摺物が所蔵されている。2007 年度からはじめた調査に基づいて、2008 年度 12 月に全カラーで所蔵品摺物全てを収めた『Reading Surimono: The Interplay of Text and Image in Japanese Prints』を刊行した。本書は図版一点一点に解説を付し、調査メンバーによるエッセイも載せている。また、図録の刊行に合わせて、博物館では「摺り物 - ほのめかしの芸術 (Surimono - die Kunst der Anspielung)」と題した企画展を 2009 年度 4 月まで開催している。この展示は次にドイツのケルンへと巡回し、2010 年には名古屋で開催される予定である。



*ギャラリートークの様子

2, UBC/SOAS/ARC「近世視覚文化を読み解く」共同研究

この研究会は、文学、美術、演劇など多角的な視点から浮世絵に描かれた世界を読み解き、描かれた表現が当時のどのような発想にもとづいて表現されているかを報告していくことで、浮世絵における新たな機能、研究方法を考究する。カナダブリティッシュコロンビア大学、ロンドン大学 SOAS、立命館大学、金城学院大学と国内外の研究者が参加し、それぞれの専門分野も、文学、演劇、書、中国文学、中国絵画と多岐にわたっている。研究会蓄積型の手法をとるが、同時に、ヨーロッパの所蔵機関の絵手本調査・デジタルアーカイブも実施する予定である。



「恋合端唄つくし小町・業平」
立命館大学 ARC 蔵

3, 藤井永観文庫宸翰分析研究

21 世紀 COE プログラムの成果の一つである藤井永観文庫所蔵の宸翰研究をさらに発展させ、その筆跡、墨跡などを情報工学的、科学的なアプローチによって分析する。